

第 281 回 昭和の森自然観察会

樹木の花

松本敏子（千葉市）

日 時：2015 年 5 月 10 日（日）

参加者：25 名（大人 18 名、子ども 7 名） 指導員 13 名

担当指導員：川北紀子、松本敏子

連休も終わり、若葉から変わって緑陰の濃くなり始めた昭和の森で「樹木の花」をテーマにお話しすることになりました。

駐車場脇のハクウンボクは盛りが過ぎて、樹下が落下した花で真っ白になるほどでしたが、まだ花は残っていました。緑の葉とその下に雲のように下がる白い花はとても綺麗です。1年目の枝は緑色ですが、2年目の枝は暗褐色の表皮が割れてはがれ落ちる事をお話ししました。

近くのヤマボウシは「一つの花ではなく、小さい花が集まっており、まわりに4辺あるのは苞といい、花を包むものです。」と話しましたが、苞はまだ緑色で白くなつておらず、きれいなヤマボウシをお見せする事が出来ずに残念でした。

つつじの木では、花の中央に虫へのサイン「蜜標」があり、花弁はここだけ溝が深くなつており、この奥に蜜がある事、花の長さがチョウに丁度良い長さである事をお話し、花を一つ取って、蜜を吸って貰いました。

市町村の森の松の木では、花粉を出し終わった雄花と、今年枝のてっぺんについている赤い雌花を見「この赤い雌花が受粉すると、マツボックリになります。1年目ではまだ緑色ですが、秋になり茶色のマツボックリになります。」とお話ししました。

花木園ではトチノキが花盛りでした。
円錐花序に、びっしりと花が咲いています。
「雄しべだけの雄花と6本の雄しべと1本の雌しべのある両性化が混在しています。」といいましたが、皆で探しましたが、雌しべが見つからずどれも雄花に見えました。「花床が赤いのは盛りを過ぎたり、受粉してしまったりして、もう虫に来て貰わなくってもよい花で、黄色い花床は虫に来てほしいというサインです。」とお話ししましたが、小さい甲虫が赤い花で花粉を食べていました。花の気持とは別の様です。

ホウノキでは田中肇先生の『花と昆虫がつくる自然』から「1日目は雌花で、香りで虫を呼び寄せ、蜜も花粉も無い花から虫が逃げ出す際に花弁は半びらきで滑って登れず、中心の雌蕊をよじ登り出る、この時受粉される、2日目には雌花は閉じてしまい、雄花が熟して花粉を出し、花弁は全開し、香りと花粉で虫を呼び、虫は再び出て行く、自家受粉をさけるしくみがあり、雌しべが先に熟すのを「雌性先熟」といいます。」と本で読んだばかりのお話をしました。

ユリノキ、カラタネオガタマの甘い香りを嗅いで観察会を終わりました。

